

コーパスとドイツ語教育——日本人のための「自然なドイツ語」の提供を目指して

大藪正彦 (島根大学)

【概要】先の独文学会シンポジウム「大規模コーパスを用いたドイツ語研究——ドイツ語教育への応用を目指して」(在間進先生ほか)では、コーパス研究の成果のドイツ語教育への応用という点が強調された。本発表では、その点についてさらに議論を深め、ドイツ語教育のために具体的に何ができるのか、何をしなければならないのかを考える。とりわけ、コーパス分析の結果から **relevant** なものを区別する必要がある、そのためには並行して誤用分析や対照研究を進めていく必要があることを述べる。発表の最後には、翻訳資料を用いた対照研究の例を紹介する。

## はじめに

たとえば談話語用論の考えによれば、文法はまさに会話から生まれ出るものである。会話の中でくり返しくり返し現れる単語列が、やがてパターン(文型)という文法的な存在へと昇華する。私たちがしゃべるたびに、つなげてしゃべられた単語どうしがパターンに一步近づく。つまり少しだけ文法化する。もっとはっきり言ってしまえば、現代日本語文法などという安定した「文法」、確固とした「文法規則」はフィクションでしかない。現実には私たちの目の前にあるのはただ、絶え間ない無数のおしゃべり、つまり「文法化」だけだ、ということになる。

大変おもしろい考えである。その上での話だが、もしも「文法」(が仮にあるとして)の正体が、会話の中で現れる単語列の頻度にすぎない、とまで考えてしまうとしたら、私は何か腑に落ちないというか、さびしい思いがする。(定延 2008: 192)

## I. コーパスの主な二つの用法：用例検索と頻度調査

### 1. 用例検索

実例か作例か

白川 (1999) — 実例にあたる必要性：①直観は意外と当てにならない ②作例は思い込み  
に左右されやすい ③作例は問題発掘には不向きである — 一方で実例には実例の問題：①  
用例採集は地味で根気が要る ②信用できる材料を選ぶのは難しい ③収集の網に掛らない  
用例もある ④混沌とした言語現象を解きほぐすには相応の洞察力が必要である — 実例  
か作例かという二者択一の議論は不毛、敢えて言えば「実例も作例も」— また、説明の便  
宜という点では実例よりも作例の方が論点がハッキリする

人称制限？

- (1) アマゾン<sup>①</sup>は悲しく、寂しかった。(仮面ライダーアマゾン, 第5話ナレーション)
- (2) 漱石はもちろんその後作家として大成し、日本近代文学の礎を作ったわけだが、晩年は身体をこわして、自宅で病の床にふせていた。なにしろ胃が痛かった (見るからに胃をこわしそうなタイプの人ですよ)。 (村上春樹「村上ラヂオ」)

実例に含まれる「不自然な」表現

「英語青年」2008年3月号(特集:英和辞典の新時代):コーパス依拠を謳っている辞書であっても「自然」とは言えないような例文が認められる — つまり母語話者の言葉遣いであってもすべてが適切で非の打ちどころのないものとは言い切れない — (辞書の)素材となるものを確かな目で吟味することが欠かせない

- (3) Ich warten auf sechs Richtige in Lotto. [...] Dann ich zahlen Gehalt von meine Mann und nicht mehr bekommen graue Haare. (*Bildzeitung* Juni 1967, Mannheimer Korpus 1)

Cf. Beaugrande/Dressler (1981): Textualität

使用域の問題 (あるいは「佐藤さんだわ」問題) — 小説などではよく用いられるが、実際の使用は好まれない:

役割語 (→ 本日午後のドイツ文法理論研究会)

- (4) ソフィー: 私 海初めてなの きれいね キラキラしてて  
マルクル: いつもと同じじゃよ ... わしはイモは嫌いじゃ ... わしは魚 嫌いじゃ  
(ハウルの動く城)

話し手・聞き手の言語化

- (5) ソフィー: 私 あなたを助きたい あなたにかけられた呪いを解きたいの  
ハウル: 自分の呪いも解けないお前にか  
ソフィー: だって私 あなたを愛してるの  
(ハウルの動く城)

## 2. 頻度調査

語彙使用頻度: ①レマ形の頻度 ②変化形の頻度 ③語義の頻度

コロケーション頻度: 結合語句の ①数 ②形 ③意味

Cf. „Valenz‘ entsteht allererst durch gewohnheitsmäßige Kollokation.“ (Ickler 1985: 364)

「教育への応用」の中身

誰を想定しているのか (初級者, 中・上級者, 教員?) — どんな課題を想定しているのか (Rezeption od. Produktion von Texten?)

## 2.1 語彙・語義の頻度

受動的な言語使用 (Rezeption) に際して：多くの場合，意味が分かればいい — 検索の効率化をもたらすという点で (語義の) 頻度順配列は有効 — コロケーションなどの文法情報は実際にはそれほど重要でない — 一方，頻度順配列の問題点：有機的な意味のまとまりを切り崩す危険性 (cf. 「英語青年」2008年3月号)：

VALBU (Schumacher u.a. 2004) より

**verlängern** 1 etwas irgendwielange länger als vorgesehen gelten lassen  
2 etwas irgendwielange länger als üblich dauern lassen  
3 länger machen ← 基本語義  
...

**korrigieren** 1 jemandes fehlerhafte Äußerung mündlich(?) korrigieren

**helfen** 1 bei jemandem/etwas eine gesundheitliche(?) Besserung bei etwas bewirken

## 2.2 コロケーションの頻度

So bilden Ausländer immer wieder falsche Sätze wie „\*ich besuche“, „\*ich gebe“ in Analogie zu den richtigen Sätzen wie „Ich trinke“, „Ich höre“. (Helbig/Schenkel 1991: 11)

コロケーションなどの (文法) 情報が重要となるのは能動的な言語使用 (Produktion) に際して — 想定される主な状況は，①自由作文 ②和文独訳 ③作文添削 (主に日本人教員) — どのような情報が必要か？ — 間違いをなくす (減らす) ことができる情報

(コロケーション情報の前に，実際には語彙選択という重要な問題がある — 類義語の分析についても今後検討すべき)

„Ich besuche.“ について

そもそも誤りなのか，どこに原因があるのか，その本質は何か — 最終的にはコンテキストがないと判断できない — 仮に „ich besuche“ という文が実際に発話されたとして，その話者が „Ich besuche x“ と言うつもりで，x 部分を言い忘れたとは考えにくい — そうではなく，(一つの可能性として) 意図された内容は「私が行きます」 (= Ich mache einen Besuch / Ich bin Vertreter) のようなもの (cf. Ickler 1985) — そうだとすると，その話者は，ドイツ語では besuchen を「絶対的に」用いることは一般的でないことを知らなかったということになる (ただし決して不可能なわけではない) → 誤用分析の必要性

(6) Unsere beyden Freunde blieben nun noch einige Tage zu Rothenbeck, besuchten und wurden besucht. (J. H. Jung-Stilling: *Lebensgeschichte*; zit. nach Ickler 1985)

類例：Ich wollte besitzen und besessen werden. (U. Gräfe 訳)

[僕が求めていたのは...] 所有し，所有されることだった。(村上春樹「われらの時代のフォークロア」)

実際に可能性が高いのは日本語からの類推か：

(7) Besuchen Sie ihn morgen? – Ja, ich besuche.

ただしそうだとすると、問題の現象は文法の枠内でドイツ語一般に該当する規範として教えるべき – 個々の動詞のコロケーション（結合価）として逐一教えるのは合理的ではない

使用頻度の高いものから先に学ぶことが合理的か？

例：warten – DWDS や Wortschatz でコロケーションを調査すると、高頻度の共起語句は lange, müssen, darauf などであることが分かる – では warten を „Ich mußte lange darauf warten“ または „auf+4格 時間 warten (müssen)“ のような形で教えるべきか(学ぶべきか)

結合語句（結合価）の多い語義（用法）は、結合語句のない語義（用法）から導く方が、その逆に比べて容易（結合語句が多いほど意味が特定化されるため） – また、初級者は限られた語彙を最大限にやりくりする必要があるため、特定化されていない語義（用法）から出発することの方が望ましいと言える – （そもそも、初期の段階から、外国人と区別がつかないほど *idiomatisch* な慣用表現を使いこなせるようにすることがドイツ語教育の優先的な目的だろうか） – 教育的観点に立てば、初級段階では少ない共起語句から出発することの方が有意義であると考えられる

また、「待つ」という語義にコロケーション情報はすでに含まれていないか – すなわち *warten* のコロケーション情報は学習者にとって *redundant* ではないか – 特に日本語の「待つ」とコロケーションの状況があまり変わらないのであればなおさら – ただし、形態情報やイディオム情報はこの限りではないし、優れた例文・用例を示すことは別途必要 – 今後は何が日本人にとって *relevant* な情報であるのかを把握することが重要 → 日独対照研究の必要性

コロケーション情報（の多く）は、直接提示するべきものというよりは、よりよい語義記述・よりよい例文提供のための手段と考えるべき – 教員にとっての指針ともなる

コロケーションと意味

ここでも受動的・能動的言語使用を区分して考える必要 – 受動的状況に関して：(辞書では) 高頻度の用例を挙げることにより、検索の効率化 – 能動的状況に関して：???

(8) \*Emil weiß das zu Hause. (Welke 1988: 47)

(9) \*Die Sonne liest aus Grimms Märchen vor. (ebd. 14)

(10) \*Die Katze gähnt die Maus. (ebd. 47)

\*アスタリスクはいずれも原著者による

Des Rasonierens über außersprachliche Wirklichkeiten und Möglichkeiten ist naturgemäß kein Ende, und der Linguist oder der Fremdsprachenlehrer darf keinesfalls etwas aus sprachlichen Gründen für unmöglich erklären, was der Sprecher aus sachlichen Gründen, mögen sie noch so phantastisch sein, tatsächlich mitzuteilen beabsichtigt. (Ickler 1994: 80)

(11) Sie schief die Welt. (R. M. Rilke, *Die Sonette an Orpheus*)

彼女は世界を眠っていた。(高安国世訳)

コロケーション頻度は常に有効か

イディオム (kein Blatt vor den Mund nehmen) ~ イディオム的なもの (den Hunger stillen, den Durst löschen/stillen) ~ ある程度コロケーションのクラスが予想されるもの (ranzig: so, daß das Fett darin alt ist und schlecht riecht und schmeckt <Butter, Öl, Nüsse ...>) ~ コロケーションに何ら共通性が見出せそうにないもの (stellen <Themen, Fallen, Zeugen ...>)

発話に先行する事態把握 (construal) の問題

どの言語の話者であっても, 同一の事態についていくつかの異なるやり方で把握 (construe) し, それに応じて異なるやり方で言語化するという能力を有する (Langacker 2002: 61) - コロケーション以前の問題として, 学習者は全体的な表現の構成の仕方を考える必要がある - 特に日本語とドイツ語の相違を考えた場合, 日本人学習者が, 同一の事態を異なったやり方で把握し, 結果的に「不自然な」ドイツ語表現を構成してしまうという可能性は十分にあり得る - この種の問題は, しばしば文法的に正しいか, 正しくないかという問題ではなく, 傾向として捉えられるべき問題 - そのような「好まれる事態把握」の傾向をコーパスにより抽出できないか

II. 事例研究: 「sehen と見る・見える」の調査から見えてくるもの

B. Schlink, *Der Vorleser* / 松永美穂訳「朗読者」

		総数	見る人などの表示	見える対象の表示
ドイツ語原文	sehen	125	112 (90%)	122 (98%)
日本語訳	見る	115	62 (54%)	100 (87%)
	見える	42	2* (5%)	36 (86%)

\*内訳: わたしには (1例), ぼくの目には (1例)

村上春樹「ノルウェイの森」/ U. Gräfe 訳, *Naokos Lächeln*

		総数	見る人などの表示	見える対象の表示
ドイツ語原文	sehen	191	165 (86%)	180 (94%)
日本語訳	見る	263	115 (44%)	200 (76%)
	見える	107	5* (5%)	87 (81%)

\*内訳: 僕には (1例), 僕は (1例), 他の人々に [見えないのか] (1例), 目に (2例)

語彙・語義のずれ・広がり (→ 巻末資料参照)

sehen, ansehen, aufsehen, blicken, betrachten ... — sehen と「会う」「分かる」 usw. — 「見える」と aussehen, kommen(!) usw. — 「面倒を見る」「夢を見る」「見るからに」 usw.

事態把握のずれ：

- (12) a. Ich fahre im Auto. Ich sehe rechter Hand das Haus und ...  
b. ぼくは車を運転していて、右手にあの家が見える。  
(13) a. Wenn ich das Haus auf dem Land sehe, dauert der Traum länger, ...  
b. その家が田舎にあるときは、夢はもっと長く続く。

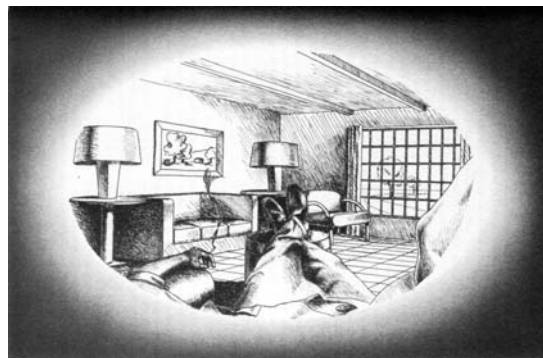
「見え」を語る — 日本語話者の「イマ・ココ」へのこだわり：

- (14) a. 片桐がアパートの部屋に戻ると、巨大な蛙が待っていた。(村上春樹「かえるくん、東京を救う」)  
b. Als Katagiri in seine Wohnung kam, wartete dort ein riesenhafter Frosch auf ihn. (U. Gräfe 訳)  
c. Katagiri **found** a giant frog waiting for him in his apartment. (J. Rubin 訳)

主観的事態把握 (subjective construal)

話者は問題の事態の中に自らの身を置き、その事態の当事者として体験的に事態把握をする。実際には問題の事態の中に身を置いていない場合であっても、話者は自らがその事態に臨場する当事者であるかのように、体験的に事態把握をする(自己投入)。話者自身は認識の原点として言語化されず、暗示的なままにとどまる。

Cf. Ikegami (2005), 本多 (2005)



左目に見える部屋の様子 (Gibson 1986: 113 より)

- (15) a. <sup>まつたかだち</sup>先高館にのぼれば、北上川南部より流るゝ<sup>たいが</sup>大河也。(芭蕉「おくのほそ道」)  
b. Wir stiegen zuerst auf den Takadachi-Hügel, wo wir den Kitakami-Fluß betrachten konnten, der aus der nördlich gelegenen Nambu-Gegend kommt. (G. S. Dombrady 訳)

好まれる言い回し

文法に問題がなく、コロケーションにも問題がなく、使用域にも問題がない状況でも、母語話者の目から見るとなお「不自然」な表現は生じ得る — 多くは「好まれる事態把握」の問題ではないか (cf. 大藪 2005)

- (16) a. Den alten Heilandt stimmte Schugger Leos Anblick heiter. (G. Grass, *Die Blechtrommel*)  
b. ハイラント老人はシュガー・レオの姿をみて、快活になった。(高本研一訳)  
(17) a. 僕が眠っているのを見てほしいんだ。(村上春樹「世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド」)  
b. Ich möchte gerne, daß du meinen Schlaf bewachst. (A. Ortmanns/J. Stalph 訳)

## 参考文献

- Beaugrande, Robert-Alain/Dressler, Wolfgang Ulrich (1981): *Einführung in die Textlinguistik*. Tübingen: Niemeyer.
- Gibson, James J. (1986): *The Ecological Approach to Visual Perception*. Hillsdale: Lawrence Erlbaum Associates.
- Helbig, Gerhard/Schenkel, Wolfgang (1991): *Wörterbuch zur Valenz und Distribution deutscher Verben*. 8. Aufl. Tübingen: Niemeyer.
- 本多啓 (2005): 『アフォーダンスの認知意味論』東京大学出版会.
- Ickler, Theodor (1985): ‘Valenz und Bedeutung. Beobachtungen zur Lexikographie des Deutschen als Fremdsprache’. In: Bergenholtz, H./Mugdan, J. (Hg.): *Lexikographie und Grammatik*. Tübingen: Niemeyer, 358-377.
- Ickler, Theodor (1994): ‘Standardanalysen. Methodische Probleme bei der semantischen Fundierung der Grammatik’. *Deutsch als Fremdsprache* 31, 80-85.
- Ikegami, Yoshihiko (2005): ‘Indices of a ‘Subjectivity-prominent’ Language’. *Annual Review of Cognitive Linguistics* 3, 132-164.
- Langacker, Ronald W. (2002): *Concept, Image, and Symbol*. 2nd ed. Berlin: de Gruyter.
- 大藪正彦 (2005): 「「好まれる言い回し」とドイツ語教育——モノ、コト、トコロの把握に見る「ドイツ語らしさ」」『ドイツ文学論集』(日本独文学会中国四国支部) 38, 1-11.
- Ozono, Masahiko (2008): ‘„Subjektive und objektive Auffassung. Zwei Raumauffassungsweisen in kontrastiver Sicht. (Ms.)
- 定延利之 (2008): 『煩惱の文法』ちくま新書.
- 白川博之 (1999): 「実例か作例か」『くろしお NEWS』18, 4.
- Schumacher, Helmut u.a. (2004): *VALBU – Valenzwörterbuch deutscher Verben*. Tübingen: Naar.
- Welke, Klaus M. (1988): *Einführung in die Valenz- und Kasustheorie*. Leipzig: VEB Bibliographisches Institut Leipzig.
- 在間進 (2008): 「ドイツ語コーパスの現状」(Ms.)

【資料】 sehen と「見る・見える」——冒頭の例

Der Vorleser

	原文	日本語訳	対応
1	Ich <u>sah</u> den Himmel, die Sonne, die Wolken und ...	ぼくは空や太陽や雲を <u>眺め</u> , ...	×
2	[ich] <u>sah</u> auf das Erbrochene zu meinen Füßen und ...	[ぼくは] 足もとの吐瀉物を見ながら...	○
3	Die Frau, die <u>sich</u> meiner <u>annahm</u> , tat es fast grob.	そのとき一人の女性が、ほとんど乱暴といってもいい態度でぼくの面倒を <u>見て</u> くれた。	×
4	Sie richtete sich auf und <u>sah</u> , daß ich weinte.	彼女は体を起こすと、ぼくが泣いているのに <u>気づいた</u> 。	×
5	Immer wieder habe ich in späteren Jahren von dem Haus <u>geträumt</u> .	のちになって、ぼくはくり返し、この家の夢を <u>見た</u> 。	×
6	Ich gehe durch eine fremde Stadt und <u>sehe</u> das Haus.	知らない町を歩いていてこの家を見かける、という夢だ。	×
7	Dann fällt mir ein, daß ich das Haus schon <u>gesehen</u> habe.	それから、 <u>見た</u> ことのある家なんだという考えが浮かんでくるが、...	○
8	Ich bin im Traum zum Beispiel in Rom, <u>sehe</u> da das Haus und ...	たとえば夢の中でぼくはローマにいて、... (訳出なし)	×
9	[ich] erinnere mich, es schon in Bern <u>gesehen</u> zu haben.	あの家はベルンで <u>見た</u> ことがあるのかな、と考えている。	○
10	Wenn ich das Haus auf dem Land <u>sehe</u> , dauert der Traum länger, ...	その家が田舎に <u>ある</u> ときは、夢はもっと長く続く。(知覚動詞なし)	×
11	Ich fahre im Auto. Ich <u>sehe</u> rechter Hand das Haus und ...	ぼくは車を運転していて、右手にあの家が <u>見える</u> 。	?

ノルウェイの森

	原文	ドイツ語訳	対応
1	僕は顔を上げて北海の上空に浮かんだ暗い雲を <u>眺め</u> , ...	[ich] <u>sah</u> aus dem Fenster auf die dunklen Wolken ...	×
2	[空は高く] じっと <u>見ている</u> と目が痛くなるほどだった。	... daß einem die Augen schmerzten, wenn man zu ihm <u>hinaufsa</u> .	×
3	それは何を見ても何を感じても何を考えても、...	... alles, was ich <u>sah</u> , was ich fühlte, was ich dachte, ...	○
4	しかしその風景の中には人の姿は <u>見えない</u> 。	Aber in dieser Szenerie <u>gibt es</u> keine Menschen. (知覚動詞なし)	×
5	あれほど大事そうに <u>見えた</u> ものは、...	Alles, was mir damals so wichtig <u>schien</u> ...	?
6	いつも相手の目をじっと <u>のぞきこみながら</u> 質問する癖や、...	... ihre Art, einem in die Augen zu <u>sehen</u> , wenn sie eine Frage stellte, ...	×
7	... 僕の目を <u>のぞきこむ</u> 。	... wobei sie mir forschend in die Augen <u>sieht</u> .	○
8	実際に <u>目にした</u> わけではない井戸の姿が、...	Die Gestalt jenes Brunnens, den ich nie mit eigenen Augen <u>gesehen</u> habe, ...	×
9	小さな緑色のトカゲがそんな石のすきまにするするともぐりこむのが <u>見える</u> 。	Zwischen den Spalten <u>huschen</u> Eidechsen <u>umher</u> . (知覚動詞なし)	×
10	... 何も <u>見えない</u> 。	... kann man nichts <u>erkennen</u> .	×
11	[彼女は] ... 僕の顔を <u>見て</u> , 本当よという風になつこりと微笑んだ。	... <u>sah</u> sie mir wie zur Bestätigung ins Gesicht und lächelte.	○